

- 1. 業績の説明
- 2. 経営方針と事業戦略

2011年5月10日 1 **Minebea**

業績の説明

取締役 専務執行役員 加藤木 洋治

2011年5月10日 2 **Minebea**

通期連結業績ハイライト

世界経済の回復と当社のコスト削減努力により、大幅な増収増益

(百万円)	2010年3月期 2011年3月期		前年比	
(1/313/	通期	通期	伸び率	
売上高	228,446	269,139	+17.8%	
営業利益	12,059	22,163	+83.8%	
経常利益	10,203	20,364	+99.6%	
純利益	6,662	12,465	+87.1%	
一株当たり 純利益(円)	17.20	32.61	+89.6%	

為替レート	10/3期 通期	11/3期 通期
US\$	93.04円	86.04円
ユーロ	131.10円	113.22円
タイバーツ	2.74円	2.75円
人民元	13.61円	12.78円

2011年5月10日 3

2011年3月期連結業績は売上高が前期比17.8%増の2,691億3,900万円、営業利益は83.8%増の221億6,300万円、純利益は87.1%増の124億6,500万円と前期に比べれば大幅な増収増益となりました。

円高ドル安およびユーロ安、エネルギーや資源価格の高騰などといった厳しい環境下ではありましたが、当社のコスト削減努力とリーマンショックからの世界経済の回復を受けた需要の伸びがこの業績 改善を支えました。

Minebea

4Q連結業績ハイライト

需要回復の一服と東日本大震災によるサプライチェーンの混乱などで、 第4四半期は前四半期比で減収減益

(TEM)	2010年3月期	2011 	F3月期	前年同期比	前四半期比
(百万円)	4Q	3Q	4Q	伸び率	伸び率
売上高	60,461	67,500	63,944	+5.8%	-5.3%
営業利益	5,494	5,597	4,194	-23.7%	-25.1%
経常利益	5,185	5,117	3,710	-28.4%	-27.5%
四半期純利益	3,090	3,331	1,816	-41.2%	-45.5%
一株当たり 四半期純利益(円)	8.06	8.71	4.75	-41.1%	-45.5%

為替レート	10/3期4Q	11/3期3Q	11/3期4Q
US\$	90.43円	82.99円	81.78円
ユーロ	126.07円	112.50円	110.55円
タイバーツ	2.73円	2.75円	2.67円
人民元	13.24円	12.40円	12.39円

2011年5月10日 4 **Minebea**

一方、2011年3月期第4四半期の連結業績は第3四半期比で売上高が5.3%減の639億4,400万円、営業利益は25.1%減の41億9,400万円、純利益は第3四半期に不動産売却による税金のプラス調整があった事と第4四半期にいくつかの特別損失を計上したため、45.5%減の18億1,600万円と減収減益となりました。

多くの製品市場において季節要因と需要回復の一服によりこれまでのような販売の勢いが失われたことに加え、3月に起きた東日本大震災によるサプライチェーンの混乱も影響しました。利益面ではこういった販売の停滞に加えて、HDD市場の伸びの鈍化による価格競争の激化、能力増強投資による固定費増加なども悪影響を及ぼしました。

セグメント別売上高、営業利益

営業利益の計画未達の原因は、 HDD市場の減速と回転機器での改善の遅れ

(百万円)	2010年3月期	2011年3月期	前年比	2011年3月期計画 (2010年11月修正)	
	通期	通期	伸び率	通期	達成率
売上高	228,446	269,139	+17.8%	274,000	98.2%
機械加工品	99,291	107,841	+8.6%	108,300	99.6%
回転機器	74,185	101,139	+36.3%	106,000	95.4%
電子機器	35,780	40,502	+13.2%	39,800	101.8%
その他	19,189	19,657	+2.4%	19,900	98.8%
調整額	-	-	-	1	-
営業利益	12,059	22,163	+83.8%	25,000	88.7%
機械加工品	20,634	28,088	+36.1%	28,300	99.3%
回転機器	Δ1,826	Δ224	赤字縮小	1,700	赤字
電子機器	5,384	4,160	-22.7%	4,700	88.5%
その他	Δ684	498	黒転	700	71.1%
調整額	Δ11,447	Δ10,358	-9.5%	Δ10,400	100.4%

2011年5月10日 5 **Minebea**

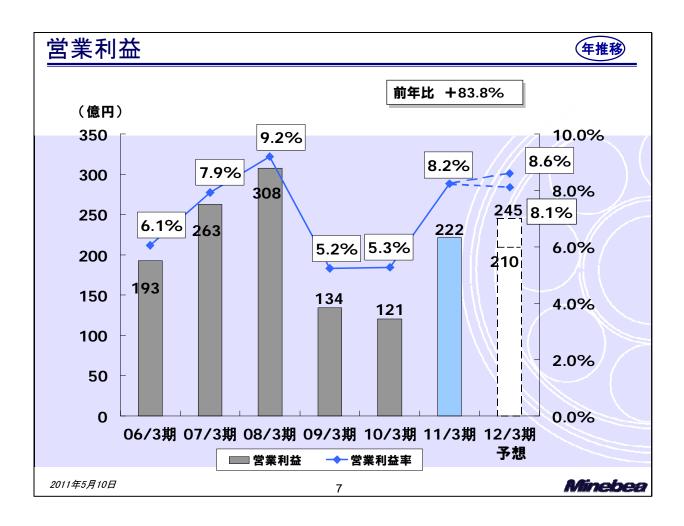
昨年11月に通期業績予想を上方修正しましたが、結局、計画を達成することはできませんでした。 売上はほぼ達成したと言えますが営業利益では未達でした。

HDD市場の減速によりHDDに使われるピボットアッセンブリーとHDDスピンドルモーターが大きく計画未達となりました。また回転機器ではHDDスピンドルモーターに加えて、振動モーター、DCブラシ付モーター、精密モーターが赤字でした。こういった事業での需要の停滞、価格競争の激化、為替の悪影響などを克服出来ずに業績の改善が計画ほどには進みませんでした。



2011年3月期は昨年度に引き続き円高ドル安およびユーロ安が進行したため為替の悪影響は前年比で推定155億円にもなりましたが、リーマンショックからの世界経済の回復が進むとともに、売上高は2,691億円と3年ぶりの増加となりました。

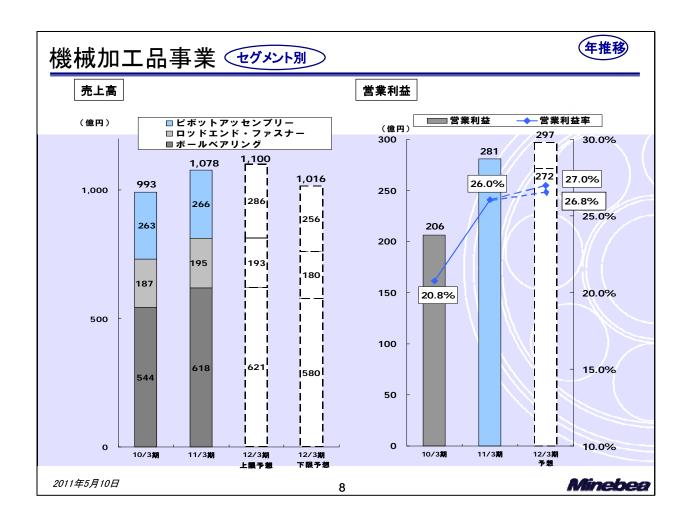
2012年3月期の売上高は3月の東日本大震災によって自動車や電子機器などのサプライチェーンが混乱していることを始めとして、先行き不透明感が非常に強いため、上限2,850億円、下限2,600億円のレンジを見込んでいます。



2011年3月期の営業利益は222億円と、前年度に比べ大きく増加しました。円高ドル安およびユーロ安の進行、エネルギーや資源価格の高騰、アジアを中心とした人件費の高騰などといった厳しい環境下ではありましたが、リーマンショックからの世界経済の回復を受けた需要の伸びに加え、当社の生産性改善や経費削減へのたゆまぬ努力がもたらした成果と考えています。営業利益率はリーマンショック前の水準に近い8.2%まで改善してきました。

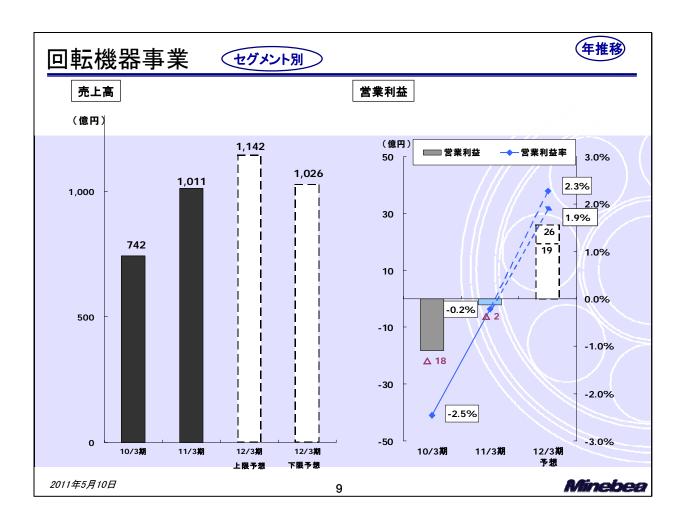
なお、一定の前提をおいた弊社の試算では為替の営業利益への影響は前期比でマイナス約48億円、また原材料高騰の影響はマイナス約12億円でした。

2012年3月期の営業利益は3月の東日本大震災によって自動車や電子機器などのサプライチェーンが混乱していることを始めとして、先行き不透明感が非常に強いため上限245億円、下限210億円を見込んでいます。



まず機械加工品事業セグメントの状況ですが、2011年3月期の売上高は前期比8.6%増の1,078億円となりました。円高ドル安およびユーロ安の悪影響はありましたが、世界経済の回復による販売好調でボールベアリングはほぼフル生産の状態が続いたことが寄与しました。営業利益は36.1%増の281億円、営業利益率は5.2ポイント上昇し26.0%となりました。これはピボットアッセンブリーでの能力増強投資による固定費増加の悪影響はあったものの、ボールベアリングおよびロッドエンド・ファスナーでの売上増加と効率改善による利益増加が寄与しました。

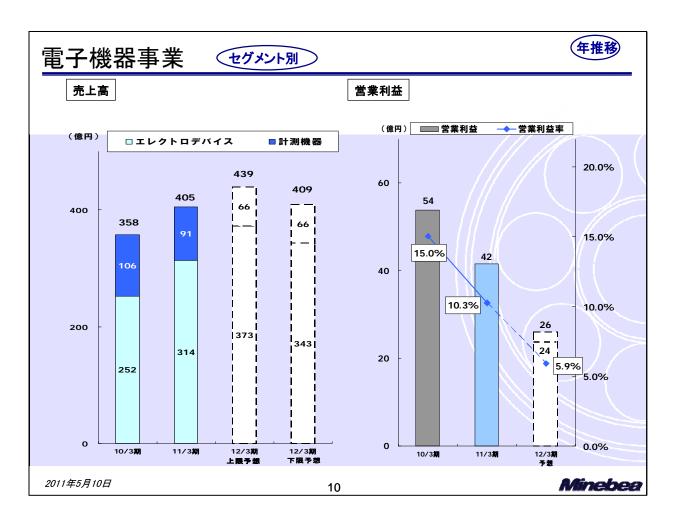
2012年3月期はピボットアッセンブリーではまだ厳しい環境が継続すると見込んでいますが、航空機市場の拡大と工場稼働率上昇によるロッドエンド・ファスナーでの利益増加と、ボールベアリングでの堅調な売上と利益を見込んでいます。



2011年3月期の回転機器事業セグメントは売上高が前期比36.3%増加の1,011億円となりました。 US\$安及びユーロ安などの為替変動の悪影響があったものの、世界経済の回復による需要増加と 昨年4月にパナソニック様から事業譲渡を受けたDCブラシレスモーターの上乗せ分が寄与しました。

営業利益は赤字が87.7%縮小し2億円の赤字となりました。営業利益率もマイナス0.2%となりました。これは振動モーターにおける設計品質のトラブルや、DCブラシ付モーターや精密モーターにおける業績悪化はあったものの、DCブラシレスモーターの新規連結とHDDスピンドルモーターやファンモーターでの改善が寄与しました。

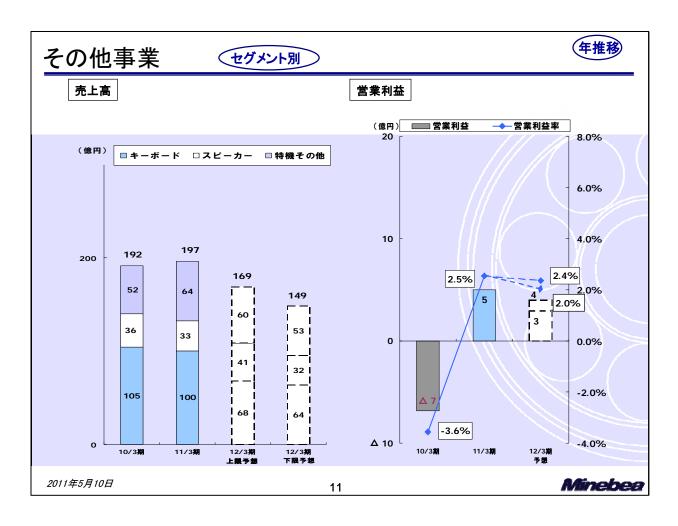
2012年3月期はカンボジア新工場の早急な立ち上げによる生産体制の戦略的再編を行いつつ、様々な製品群での効率改善を図ることで、グラフにあるような業績改善を進めます。



2011年3月期の電子機器事業セグメントの売上高は前期比13.2%増の405億円となりました。これは、計測機器でゲーム機関連の売上が期中に終息したものの、LEDバックライトの販売が大きく伸びたことが要因です。

一方、営業利益は22.7%減の42億円となり、営業利益率は4.7ポイント低下の10.3%となりました。これは利益率の高い計測機器での売上減少が響いたためです。

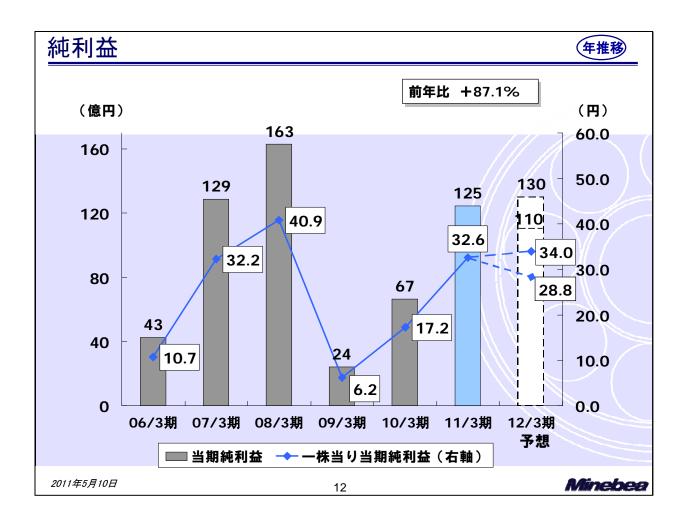
2012年3月期は中国の蘇州新工場が稼動を始めるLEDバックライトの売上が更に伸びることを見込んでいますが、利益面では利益率の高い計測機器の売上低下と、蘇州新工場の立上げによる一時費用の増加により減少を見込んでいます。



2011年3月期のその他事業セグメントの売上高は特機・その他の増加により、前期比2.4%増の197億円となりました。

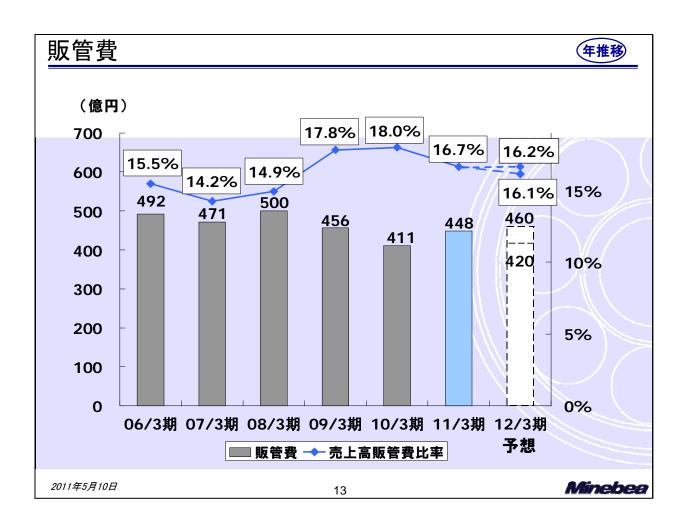
営業利益はキーボードの黒字転換と特機・その他の改善で5億円の黒字へ転換しました。営業利益率も6.1ポイント改善し2.5%となりました。

2012年3月期はノートPC向けキーボードの売上減少を見込んでいるため、グラフのような業績予想としています。



純利益は営業利益、経常利益の大幅増加を受けて125億円となりました。

2012年3月期の純利益は売上高、営業利益と同じように上限130億円、下限110億円で見込んでいます。

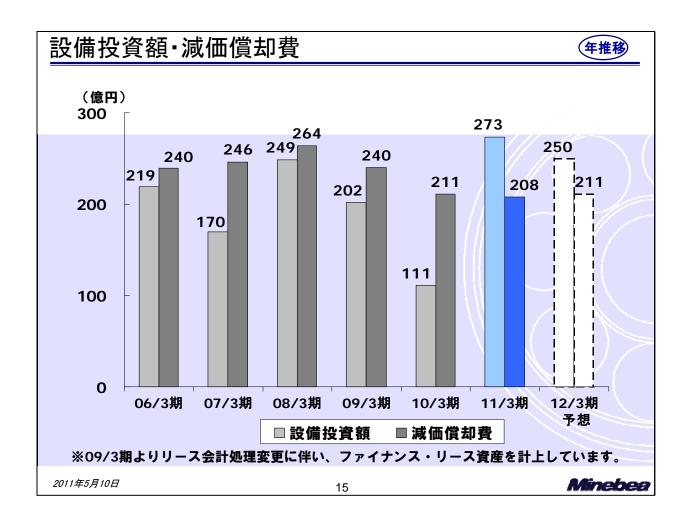


2011年3月期の販管費は物流経費など売上増加に伴う経費増加により、前期比で37億円増加しました。一方で、引続き全社をあげての経費節減への取り組みを行った結果、売上高販管費比率は1.3ポイント低下し16.7%となりました。

今期についても更に経費節減を強力に推し進めることにより、売上高販管費比率はさらに低下する見込みです。

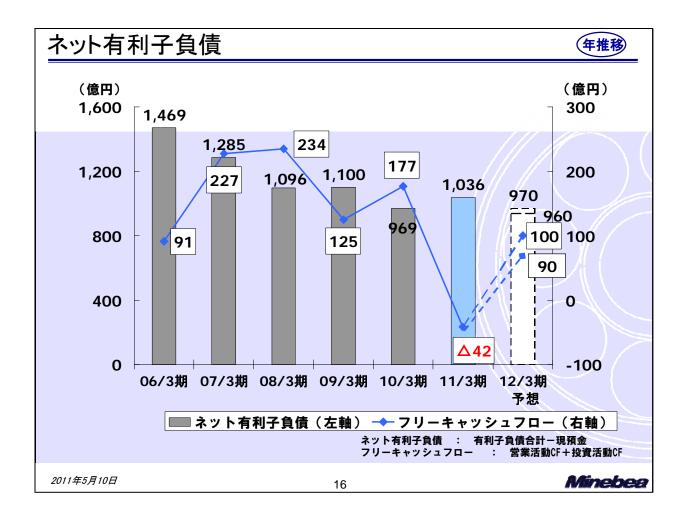


期末のたな卸資産は81億円増加しました。これは好調な需要に対応し機会損失を避けるため、一部の事業において意識的な在庫積み増し、またパナソニック様よりDCブラシレスモーターの事業移管などがあったためです。また東日本大震災に伴うサプライチェーンの混乱も影響しています。



設備投資は 2011年3月期は当初計画300億円と、世界経済の回復に合わせて積極的な能力増強投資を含む投資を行う計画でした。ボールベアリングのタイ新工場、LEDバックライトの中国蘇州の新工場、小型モーターのカンボジア新工場建設を進め、ピボットアッセンブリー、HDDスピンドルモーターなどでも生産能力増強を行い、タイの生産拠点内での生産ライン再編も行いました。但し、下期に入るとHDD市場など一部の製品市場では需要の伸びが急速に鈍化するなど環境変化が見られたため、ピボットアッセンブリーのタイ新工場建設を中止するなど、計画の一部を修正し最終的には273億円の投資額となりました。

今期の設備投資は250億円の計画としています。先ほど申し上げた工場建設などの投資額の一部が 今期計上される予定であることから、比較的高水準の設備投資が継続します。一部の事業では需要 の伸びの鈍化により、一年前に立案した中期事業計画で想定したほどのスピードでは能力増強が必 要無くなってきました。また、3月の東日本大震災によって自動車や電子機器などのサプライチェーン が混乱しています。そこで当面は必要な投資だけに極力絞った設備投資を行っていく予定です。



このグラフは有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の年ごとの推移です。

フリーキャッシュフローは前期比219億円減少のマイナス42億円となりました。これは利益が増加したものの、一方で売上の回復に対応した在庫の積み増しなど運転資金需要が増加したことに加え、設備投資を増やしたことなどが要因です。これを受けて期末におけるネット有利子負債は1,036億円となり、前期末比67億円の増加となりました。

今後は引続きキャッシュフロー創出に注力し、ネット有利子負債残高1,000億円を目処に負債水準を管理していく予定です。2012年3月期は運転資金の増加が収まることから、フリーキャッシュフローは90から100億円となる見込みです。

業績予想

下半期に景気が回復するケースをベースとして、 東日本大震災などの不透明要因を考慮し上限下限を想定

(百万円)	2011年3月期	2012年3月期予想					
	通期	上	¥期	下半期		通期	
		上限	下限	上限	下限	上限	下限
売上高	269,139	135,000	123,000	150,000	137,000	285,000	260,000
営業利益	22,163	9,700	8,100	14,800	12,900	24,500	21,000
経常利益	20,364	8,700	7,100	13,800	11,900	22,500	19,000
純利益	12,465	4,400	3,300	8,600	7,700	13,000	11,000
一株当たり 純利益(円)	32.61	11.50	8.62	22.47	20.13	33.97	28.75

為替レート	11/3期	12/3期想定
US\$	86.04円	84.00円
ユーロ	113.22円	111.00円
タイバーツ	2.75円	2.80円
人民元	12.78円	12.60円

2011年5月10日 17

Minebea

これは今期2012年3月期の業績予想をまとめたものです。

今期の業績予想は前期と反対に、前半は売上、利益が弱く、後半に強くなるパターンをベースに想定しています。東日本大震災の影響や、資源エネルギー価格の高騰、アジアにおける人件費の高騰、世界的な金利の上昇傾向、中東の政治的混乱、為替変動など、先行き不透明感が非常に強いため、そういった要因を総合して上限と下限を設定しました。



経営方針と事業戦略について

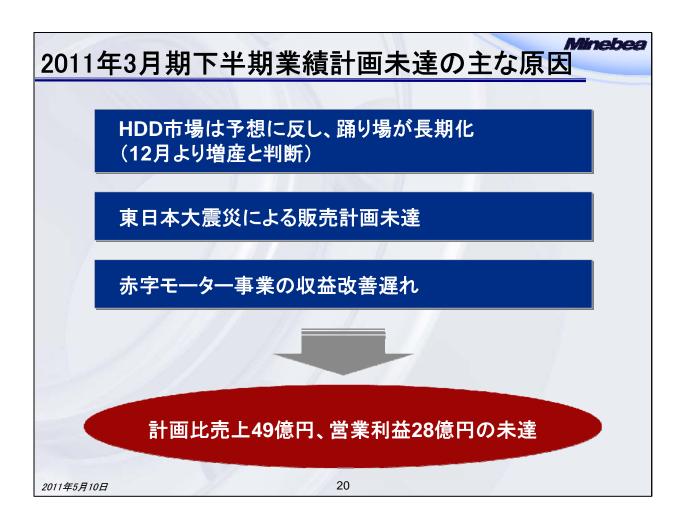
2011年 5月 10日 代表取締役 社長執行役員 貝沼 由久

18

これより経営方針と事業戦略についてご説明します。



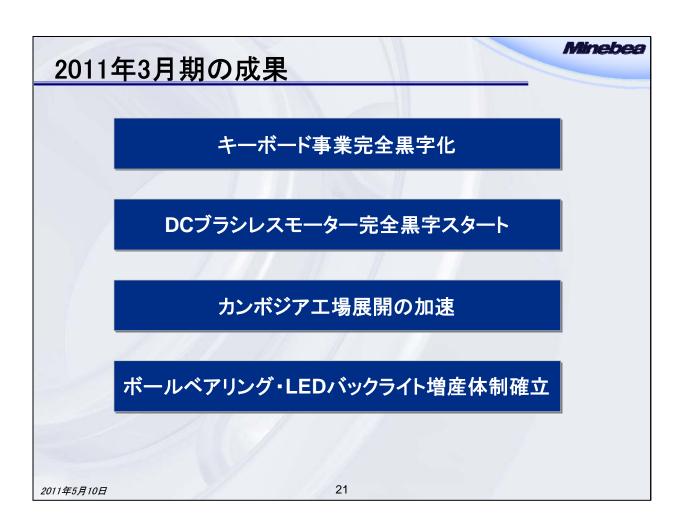
前期は前々期に比べ営業利益ベースで約100億円の増益を果たしましたが、11月のガイダンスからは約10%強の未達となりました。まずはその原因分析から始めたいと思います。



HDD市場については年率15%前後の伸びを昨年想定し、当社だけでなく、部品各社が生産能力の 増強を行いましたが、想定通りの市場の拡大は昨年度中には起こりませんでした。したがって、ピボットアッセンブリー事業が収益を押し上げるシナリオは実現しませんでした。

東日本大震災では、HDDスピンドルモーターなどが大きな影響を受けました。これはもともと販売数量が少ないうえに、あるモデルでお客様側でのICチップの入手が困難になったため約30%の数量ダウンがあり、収益に大きな影響を及ぼしました。また、HDDスピンドルモーターほどではありませんが、その他全般的に浅く広く影響を受け、3月だけで売上高で約20億円強、営業利益で約5億円から7億円の悪影響があったと思っています。

それに加え、赤字モーター事業の収益改善が遅れたのも事実です。アジア通貨高や、資材の高騰、 中国の人件費大幅増などにより、我々のシナリオ以上のネガティブな収益インパクトがありました。



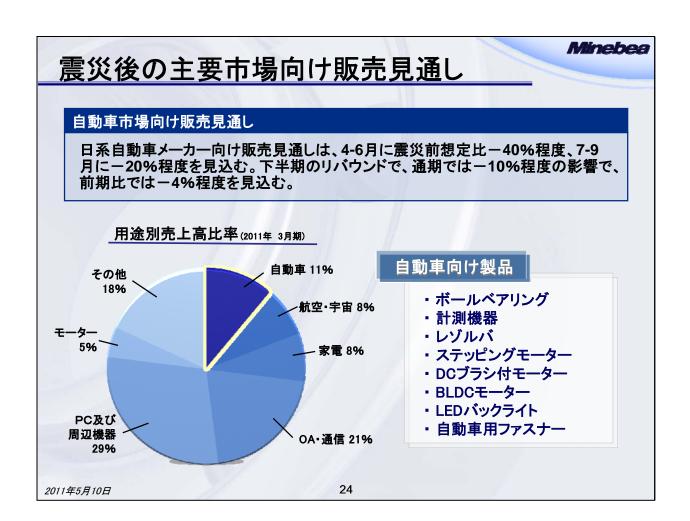
一方で2011年3月期の成果は、このスライドに書いてある通りです。



今期の経済状況について、特に東日本大震災との関連で、現在我々が想定している状況をお話します。なお、客先、その部品納入業者などの状況は日々刻々と変化していますので、その様なご理解のもと、お聞きください。

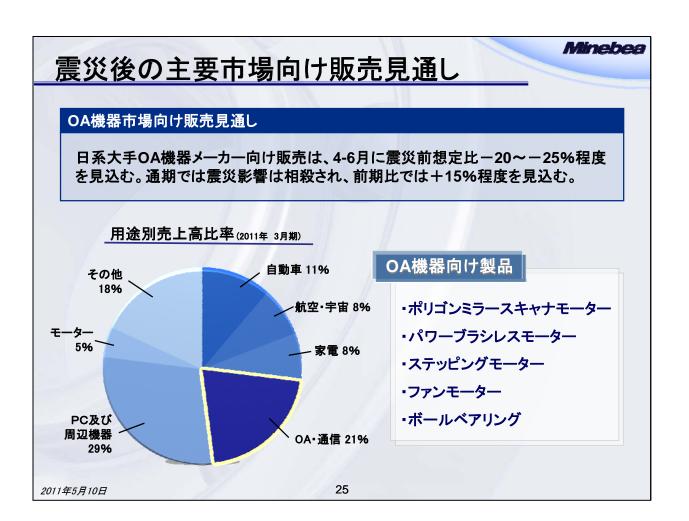
東日本大震災による影響 生産設備 ■ミネベアは90%以上を海外で生産、国内工場にも全く被害なし ■計画停電で一時、下記工場の稼働率が低下したが、現在は正常化 [東京都]大森工場、第一精密産業(株) [神奈川県]藤沢工場 [群馬県]松井田工場 原材料・資材 ■ベアリング鋼等資材・原材料の調達に基本的には問題なし ■不要不急の製品在庫圧縮

お蔭様で我々の生産設備は、直接の被害を全く受けておりません。一時は計画停電で藤沢工場が影響を受けた事も事実ですが現在は正常化しています。原材料・資材も一時は色々と心配もありましたが、基本的には問題はありません。



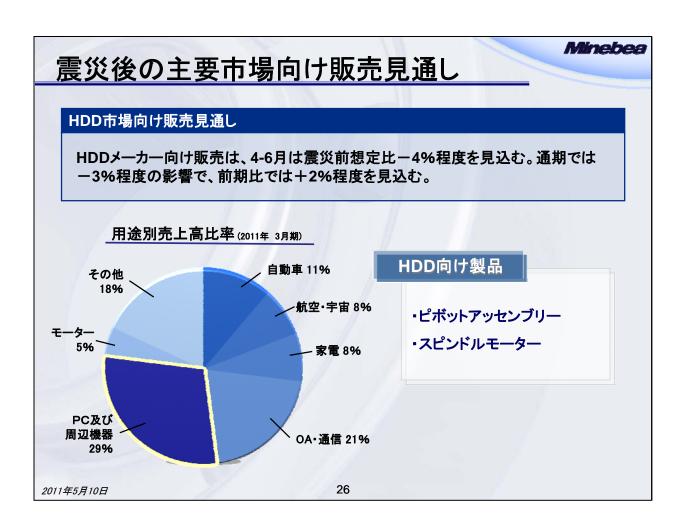
マーケットを3つ程抽出し、震災後の見通しをご説明します。

自動車の今後の生産状況は一時よりかなり明らかになってきましたが、いまだ不透明な点も多く、我々は今回このように想定しております。



OA市場向け販売に関しては、お客様はまだら模様で、今回の震災の影響を非常に受けている所と、 それ程でない所とがあります。

ただ、これも通期で震災の影響は相殺され、前期比ベースでは15%位伸びるのではないかというのが現在の我々の見込みです。

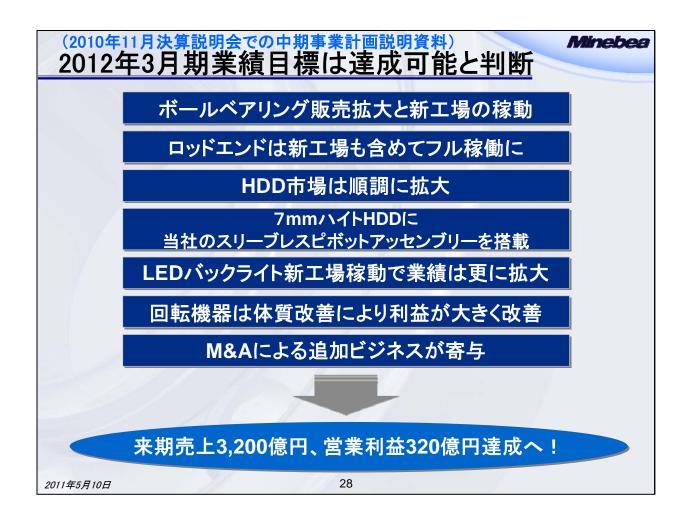


HDDに関しては、年率約15%前後で伸びていくことを想定した計画を昨年策定しましたが、今ではむしろ5%を切るような伸びにとどまることを想定し経営戦略を修正すべきではないかと考え、後にご説明するボールベアリングの経営戦略の修正を行います。

今年の伸び率は約2%にとどまるものと推定します。



この様な状況の中で、中期事業計画と経営戦略の一部見直しが必要となりました。



これは昨年11月の決算説明会で使用したスライドですが、これを再度利用して変更点をご説明します。まず、ボールベアリングの新工場については、タイの新工場と中国マーケットを狙った低価格量産品ボールベアリング新工場の2工場の建設を考えていましたが、これを考え直さなくてはなりません。HDD市場の拡大については、年率15%成長シナリオの見直しに伴い、ピボットアッセンブリー新工場の建設を中止します。そして回転機器の体質改善については、震災の影響などもあり、今期については以前ほどの改善は期待できないと考えます。

このような状況変化から、中期計画2年目である今期の業績目標は、変更を余儀なくされました。

Minebea

2010年11月からの状況変化を踏まえて

ロッドエンドは新工場も含めてフル稼働に

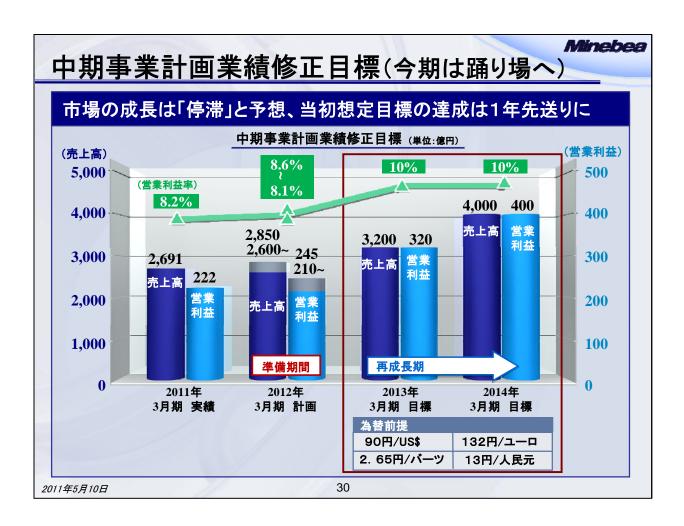
7mmハイトHDDに 当社のスリーブレスピボットアッセンブリーを搭載

LEDバックライト新工場稼動で業績は更に拡大

M&Aによる追加ビジネスが寄与

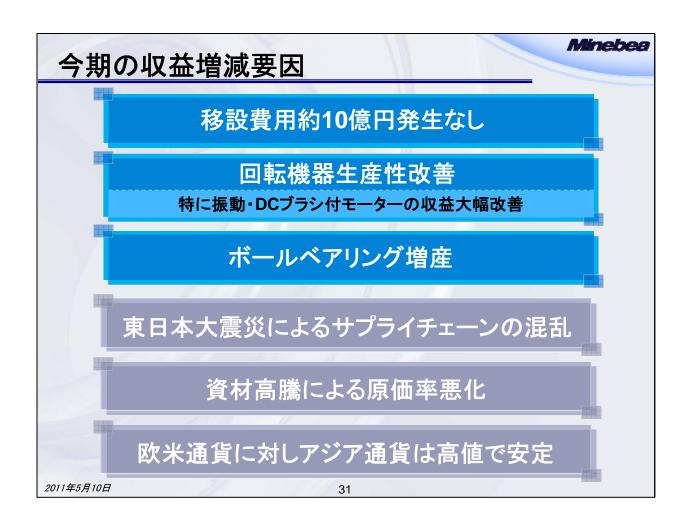
中期事業計画の2012年3月期目標は変更せざるを得ない

2011年5月10日



これが今回の修正計画となります。3年の計画が1年先にスライドしたイメージです。しかし、反対に不透明な経済状況を利用して、今年を来年の飛躍に結び付ける新たな準備期間として、積極的にとらえたいと思っています。

今期は売上高2,600億~2,850億円、営業利益210億~245億円と見込んでいます。イメージとしては、前期の業績は1Q、2Qと非常に良い状況で来て、3Qで少しスローダウンし、4Qで大きく下がりました。逆に今期については、前期4Qの低い水準で1Qが始まり、この震災の影響が徐々に解消されて2Q、3Qと売上が増加していくと見込んでいます。加えて、不透明要因が多く見通しが難しいため、今回は上限下限のレンジで今期見込みをお示しすることにしました。



今期収益の増減要因ですが、前期はタイのモーター工場の再編で、マイクロアクチュエータ、ステッピングモーター、HDDスピンドルモーターなどの様々な生産ラインの移転を行いました。今期はその費用が発生しません。回転機器の収益改善については、昨年11月には約30億円と見通していましたが、震災によるサプライチェーンの混乱、資材高騰、アジア通貨の高値安定などのマイナスの要素も考えると、今期は約20億円の収益改善と見込んでいます。

ボールベアリングについては、これまでピボットアッセンブリー向けへの依存度は非常に高かったのですが、後で述べる経営戦略の変更を行うことによって、また違った形でのボールベアリングの収益増強を図ります。

Minebea

経営戦略の見直し【変更】

設備投資の抑制と減価償却費負担軽減

ボールベアリング事業戦略の見直し

リスク軽減のための複数地域生産体制の促進

スピンドルモーター価格下落への対応

2011年5月10日

32

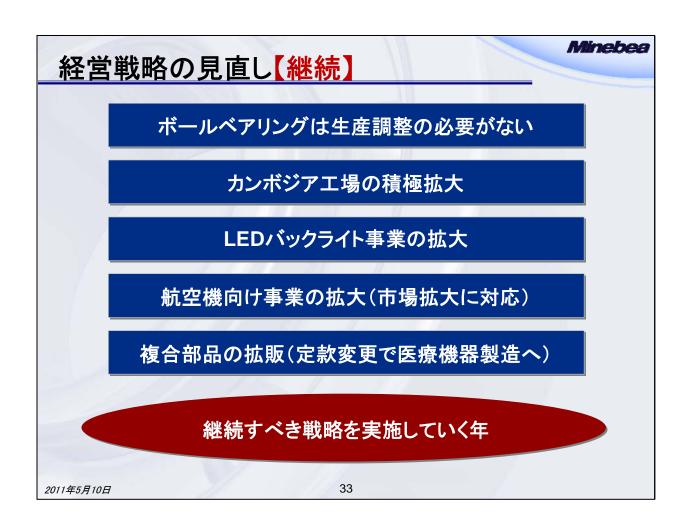
経営戦略については、去年11月からの変更点を4つ上げました。

まず一つは、中期事業計画で930億円の設備投資を行うとしてきましたが、ここで一度ブレーキを踏んで減価償却費負担の軽減を図ります。

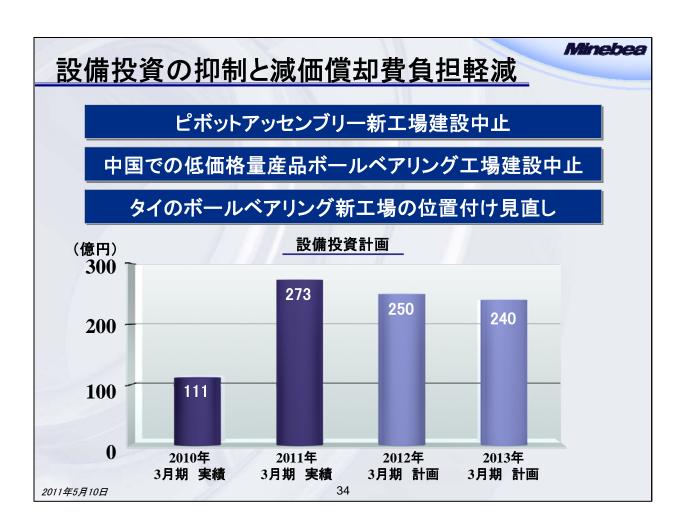
次に、先程からご説明しているボールベアリング事業戦略の見直しです。

次に、今回我々が震災で一つ学習したことは、事業リスク軽減のために改めて複数地域での生産体制を促進していかなければならないということです。特にモーターの生産体制です。

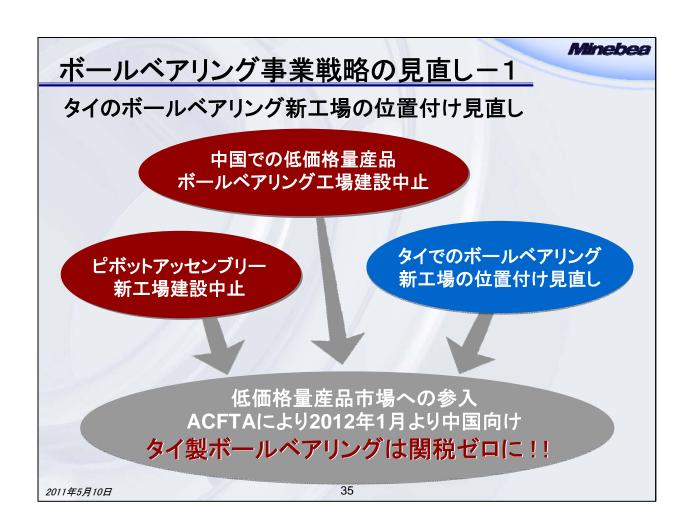
HDDスピンドルモーターでは価格下落への対応も必要です。



こちらは継続して今後も積極的に展開すべき経営戦略です。これにつきましても後ほど1つずつ説明します。その中で、当社定款の目的に医療機器の製造を追加することを、6月の定時株主総会に付議いたします。これは、複合部品の拡販を狙ったものです。



中期事業計画では、930億円の積極的な設備投資を計画しましたが、HDD市場の拡大ペースが鈍化するものと想定して、舵を切ることにしました。まず一つはタイのロップリで予定していたピボットアッセンブリー新工場の建設を中止します。それから2番目に中国での低価格量産品ボールベアリング新工場の建設を中止します。また、タイのボールベアリング新工場はピボットアッセンブリー向けボールベアリングの専用工場とする予定でしたが、この位置付けを見直します。



タイのボールベアリング新工場はピボットアッセンブリー向けボールベアリングの専用工場としての位置づけで建設に着手してきました。一方、中国では低価格量産品ボールベアリングの新工場建設予定地を探して、契約寸前まで行きました。

しかし、今後のHDD市場の不透明さと、タイのボールベアリング新工場のコスト優位性や来年1月からのACFTAを見据えて、中国の新工場を中止し、タイのボールベアリング新工場をピボット専用から中径ボールベアリングや低価格量産品を含めた多目的ボールベアリング工場として機能する工場とします。中国市場向けの低価格量産品ボールベアリングもタイで生産して、中国に輸出することになります。タイから中国へのボールベアリングの輸出は、以前は8%の関税で、現在は5%の関税がかかっています。これが来年1月からは、ACFTA(アセアン・チャイナ・フリー・トレード・アグリーメント)により、タイ製ボールベアリングを中国に輸出する場合の関税がゼロになります。

Minebea

ボールベアリング事業戦略の見直し-2

タイのボールベアリング新工場の位置付け見直し

ピボット専用工場から多目的ボールベアリング工場へ

■ボールベアリング新工場(タイ バンパイン工場)

■ボール工場増設 (タイ ロッブリ工場)

■生産製品:ピボット向け、新興市場向け低価格量産品及び中径サイズ

■稼動開始予定:2011年秋



建設中のボールベアリング新工場(タイ バンパイン工場)

2011年5月10日

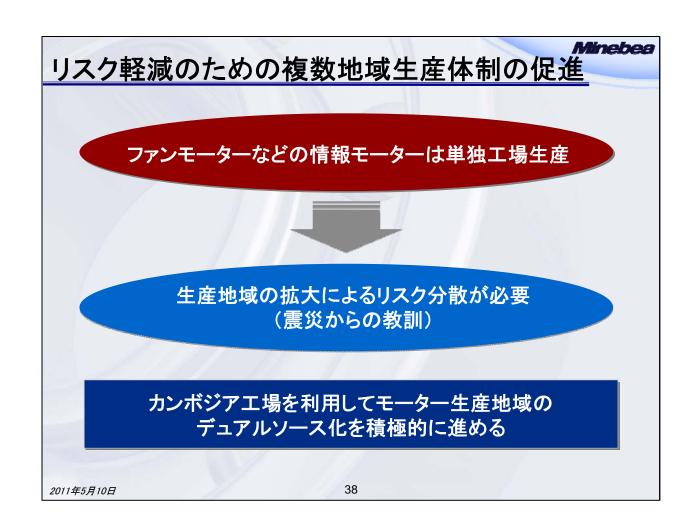
36

スライドの工場は、新たに建てている部分が長さ約270mあり、その前に既に建設済みの前工程の建物がありますので、全体で約400mの長さの工場になります。

ハイテクな省資源設計となっているほか、約800名の人員で生産ができるコスト重視の工場となっています。現在のバンパイン工場の隣という立地から、間接人員もほとんど不要になります。



新興国向けの販売体制強化のため、ブラジル、中国、インドに拠点を既に設置し活動を開始しています。新興国のこれからの発展はまだまだ目を見張るものがありますので、積極的な営業展開を図ります。

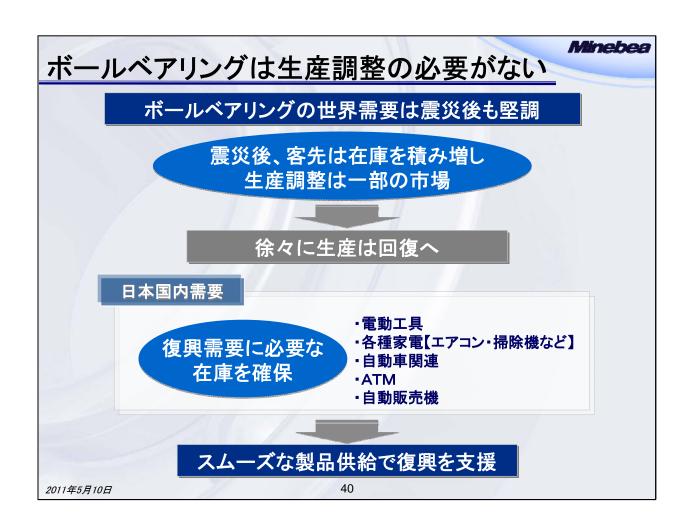


震災からの教訓もあり、事業リスク軽減の為、複数地域生産体制を促進します。機械加工品や電子機器については、すでに複数地生産が行われていますが、ことにモーター事業の一部はシングルソースが多く、リスクの分散が必要と思っております。そこで、カンボジア新工場を利用してモーター生産地域のデュアルソース化を積極的に進めていこうと思います。



HDDスピンドルモーターについては、当社の限られたリソースの中から相当なものをこのHDDスピンドルモーター事業に注ぎ込んだ結果、かなりの歩留まり改善が出来たと思います。

ただ、想定以上の単価下落がありました。東日本大震災によるサプライチェーンの混乱で、3月は約30%生産が減少し、赤字が拡大しました。4月も低迷しましたが、5月からは生産が戻ってくるという内示をお客様から受けています。単価下落に対しては更なる生産効率の改善と生産数量の引き上げという諸施策を実施することによって、HDDスピンドルモーターの黒字化を早期に達成したいと思っています。



一方でボールベアリングは、国内自動車メーカー様向けの販売数量は落ちましたが、それ以外の外売りではまだまだ需要が非常に強い状況です。また、国内の復興需要として、スライドにある様な製品がこれから被災地でも必要になってきます。復興支援の意味もあり、我々はボールベアリングの生産数量を落とさない方針です。



カンボジアについては、昨年12月にパイオニアインセンティブとして、カンボジア国内での唯一の小型モーター生産を行える権利を取得しました。生産開始から5年間はカンボジアでは50W以下の小型モーターは全てMinebea (Cambodia) Co., Ltd.が作るという排他的独占権です。

私共としてはカンボジア新工場を一つの小型モーターの生産基地としてより強固な位置付けとし、しかもスピードを上げて活用していきたいと考えています。



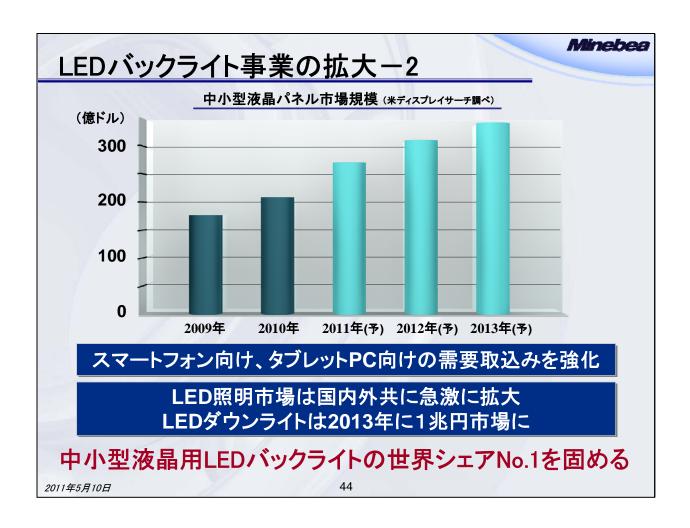
現在、今年12月を目標に本工場稼働に向けて、急ピッチで工場建設がおこなわれています。スライドにありますが、大変大きな工場です。マイクロアクチュエータ、DCブラシ付モーターの2つの製品は、もう既にレンタル工場で生産が始まっています。なるべく今期の早い時期に、振動モーターを含めたその他のモーターもカンボジアで製造を開始したいと考えています。

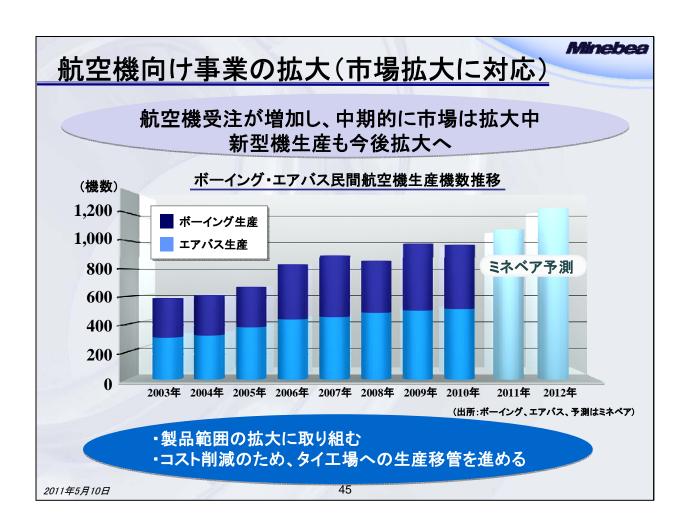


LEDバックライトの蘇州工場も、お蔭様で4月から予定通りに稼動を開始しました。

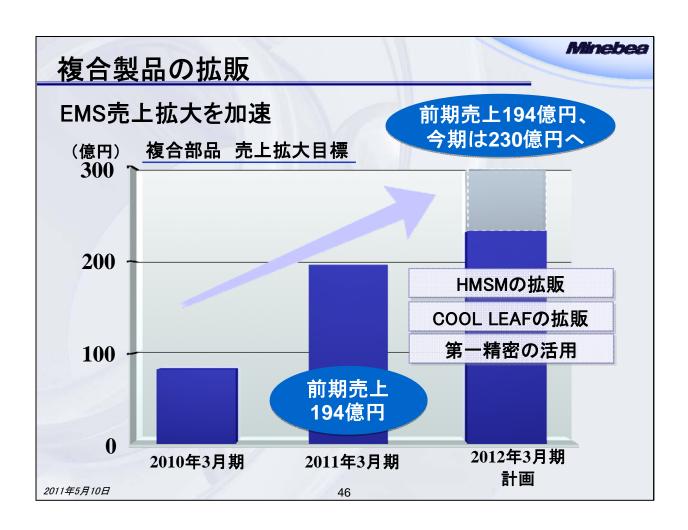
3月、4月にある資材メーカーが震災の影響を受けたことで、我々のLEDバックライトの生産数量が減少しましたが、既に復旧しております。5月、6月は大幅な生産増加となる予定です。

LEDバックライトについては、今期、かなりの事業拡大を見込んでいます。



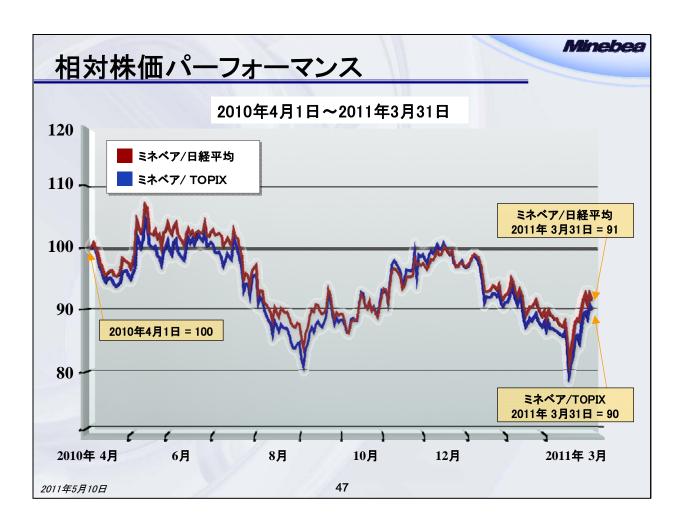


民間航空機市場に関しては、非常に強い勢いで生産が行われています。 我々の予測通りに航空機部品は拡大し、収益に貢献してくれると思います。



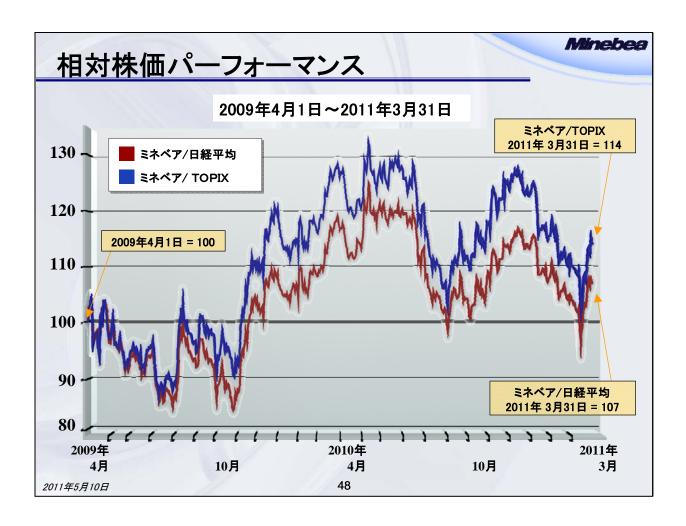
複合製品については以前から、2012年3月期で売上高300億円という目標を掲げてきました。

前期は売上高194億円と大幅な売上増加ができました。しかし残念ながら、今期は売上高230億円の目標に留まる見込みです。3年目の売上増加を期待していたHMSMとCOOL LEAFがまだ伸びてきていません。COOL LEAFは5月中旬から発売予定ですが、量産技術で遅れがでてしまいました。



私が社長になってからは、社内外で株価は我々の成績表だと言っています。

大変残念ですが、2010年4月1日からの1年間では日経平均あるいはTOPIXから約10%下がってしまったという状況です。



2年前と比較すると、日経平均あるいはTOPIXから1割前後の上昇となっています。



Minebea

配当方針

配当

11/3期 期末配当4円/株 計年7円/株

12/3期 予想配当 中間配当 3円/株期末配当 4円/株

配当方針

「当社は、経営環境を総合的に勘案し、継続的に安定した利益配分 を維持しながら、株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配 分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元をはかる ことを基本方針といたします。」

2011年5月10日 50

配当に関しては、従来から中間配当3円、期末配当4円の年一株当たり7円配当でしたが、これを今期も維持したいと思います。

Minebea

ネット有利子負債、自社株買い、M&A

フリーキャッシュフロー創出重視と財務の健全性維持

- 今後とも、財務体質の健全性とキャッシュフロー創出を重視する
- ・ネット有利子負債は、1,000億円を中心としたゾーンを引き続き目標とする

自己株式戦略の継続

- 経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行する

M&A戦略

- ・シナジー効果と更なる成長を狙って、より積極的なM&A戦略を展開する
- ・ミネベアの現状を分析し、強いところをより強く、弱いところは補強する

2011年5月10日 51

また、ネット有利子負債や自社株買い、M&Aに関しては、従来と姿勢は全く変わっていません。

東日本大震災により被害に遭われた皆様、ご家族の方々に心より お見舞いを申し上げるとともに、被災地の一日も早い復旧復興を ミネベアグループー同でお祈り申し上げます。

ミネベア株式会社 決算説明会

http://www.minebea.co.jp/

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の 見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいてお ります。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。 美院の業績は、さまさまな要素により、これら見通しとは入さく異なる結果となる場合かめります。 実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、 (2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的 な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業 績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。 本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いか なる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお

52 2011年5月10日